2009 きらり川口ジュニア議会

夏休みを利用して8月25日、市内24の中学校（各2人）、市立高校3校（各1人）から、未来を担う生徒ら計51人が出席して行われました。市政に対するさまざまな質問や提案がされ、課題について議論を交わし、本議会同様に市長をはじめ各部長が答弁しました。

出席議員（敬称略）

高橋竜太郎・大森真樹
木村晋平・白尾仁知
田部竜馬・野口真央
村上海斗・石渡優有子
岡本直樹・加藤翔
佐々木翔・市原みのり
渡辺優里菜・戸津翔太
竹原達裕・伊古田朱純
新谷美結・藤井俊
佐々木範子・稲垣拓也
鈴木球予・齋藤憲成
市川維人・細淵頌太朗
石母田陽平・尾形采音
藤岡伝・高橋杏奈
西田雄稀・平賀聖耶
青柳貴大・高瀬瑛一
本間大賀・荻原弥緒
田野口彩那・藤塚瞳
佐藤未祐・小泉彩
武井悠馬・金井洋平
堀井優希・久和ちひろ
長澤凌介・日髙あかり
大野真名実・鈴木里彩
内田悠菜・住川竣耶
中村実沙紀・有馬光星
森井明日香

本会議当日は、川口総合高校の森井明日香さんが議長を務め、26人の議員から質問や提案があり、市側答弁の後に議員提出議案（左下決議）が提出され、満場一致で可決されました。最後に24人の議員から感想が述べられ、きらり川口ジュニア議会が閉会しました。その一部を紹介します。

質問・提案

●豊かな食のまち●

「川口市内の農家のかたとの交流推進について」

私たちは、家庭や学校給食のおかげで、バランスの良い食事を取ることができています。しかし、生活の中ではファストフードやコンビニの弁当などで食事を簡単に済ませてしまうことが増えてきました。家庭科の授業で「食育」を学び、食文化の大切さを真剣に考える必要があると思いました。川口市の食料自給率は0・18%と非常に低く、健康や食について考えるためには、野菜づくりなどを身近に体験することが有効であると考えます。そこで、学校農園を有効に使うため、ゲストティーチャーを学校に招くなど、農家のかたとの交流推進について提案します。

答弁

農業体験は、農作物の作付けから育てあげ、そして、収穫の喜びを共有し、食することは、子どもたちの豊かな人間形成に寄与するものと認識しています。

ご提案いただきました「学校農園」に指導者を派遣する登録制度など関係団体と協議しながら、積極的に取り組んでいきたいと存じます。

川口に住んで良かったといえる街づくりの決議

川口市は現在、人口が51万人を超え、約23万世帯が暮らす一大都市に発展しています。駅の周辺をはじめとして再開発が進み、新しい住宅やマンションが次々に建設されています。新たに川口に移り住んでくるかたも増え、まちが発展していくことは、川口に住む私たちにとって大変うれしいことです。

また、川口市では、たたら祭りや国際文化交流フェスティバル、SKIPシティ国際Dシネマ映画祭など多くの行事が企画され、住む人同士の交流や外国から来て生活しているかたがたとの交流に役立っています。こうした行事を通して相互理解が進み、お互いがより親しくなることで、川口が安心で安全なまちになるものと思います。

しかし、これからはこうした行事を通しての取り組みだけでなく、普段の生活で私たちができることにも取り組んでいくべきであると考えます。

私の通っている学校では、生徒会が中心となって、挨拶運動に取り組んでおり、生徒や先生がたが、ごく自然に挨拶を交わせるようになりました。自然で明るい挨拶は私たちの心を和らげてくれます。気持ちのよい挨拶が返ってくることで、仲間としてつながっているのだという実感を得ることができます。今は学校内だけの取り組みになってしまっているかもしれませんが、こうした挨拶がまち全体に広がることで、自然な笑顔と思いやりのある川口にしていくことができると思います。そして、人と人とのつながりを広げていって、より安全で安心なまちにしていくことが私たちの願いです。

そのようなまちにするためには、学校を単位とした取り組みを川口に住む市民の一人ひとりに広げていくことが大切だと思います。たとえ、一人の力は小さいかも知れませんが、みんなで取り組むことで、川口市全体に明るい挨拶があふれる日がきっと来ると思います。

川口に住み、学んでいる私たちにとって、川口はかけがえのないふるさとです。みんなで良いまちをつくっていく、それは川口市に住む私たちの責任でもあります。努力をして、このふるさと川口に住んで良かったといえる街づくりを一生懸命進めていきたいと思います。

そこで、こうした取り組みが市内の小・中・高等学校から川口に住む人たち一人ひとりに広げ、挨拶があふれ、住んで良かったといえる街・川口をつくることを決議します。

平成21年8月25日

きらり川口ジュニア議会